

(身辺雑記 2) 調布に住んでいた頃

目下放映中の NHK の朝の連続ドラマは調布が舞台になっている。妻がそのこともあってか見始めたので、私もおおかた見ている。「ふたりっ子」というのをずっと以前に見て以来だから、たぶん十数年ぶりのことだろう。なにしろマナカナが子役で出ていたのだから。

テレビドラマでは、現在昭和 40 年代にさしかかり漫画家が突然脚光を浴びて、売れに売れ始めているようだが、私自身、ちょうどその時期に、調布の公務員宿舎に住んでいた。若手官僚の時期で、地域に関する思い出は乏しいが、当時小さい子どももいたため、深大寺とか神代植物公園そして京王多摩川駅の直ぐ近くにあった京王遊園などにはしばしば行った記憶がある。

京王線は、軌間の幅が一般の私鉄や JR より広いとかで、結構スピードが出ており、その直前に乗り慣れていた西武新宿線の急行と比べると、明らかに速かった。

調布は、23 区の外とはいえ、特急に乗ると、明大前に止まるだけで、新宿に僅か 15 分で着いてしまうので、とても便利だった(と言っても、朝の出勤時には、特急は走っておらず、帰途だけ利用できたように思うが)。

また、休日に下りに乗って、多摩動物公園や高尾山に子どもと出かけるのにも、さほど時間がかからず、特に早起きするほどの必要がなかったのはありがたかった。

ただ、このように便利な立地だったが、いったん京王線が止まってしまうと、ほとんど代替交通手段はない。当時は、今とちがって、私鉄は結構ストライキを実際に決行した。ある日、正確な時刻は忘れたが、午後の 3 時半も過ぎたころになって、ようやくスト解除指令の出されたことがあった。

それから出勤したところで、役所に着いた頃には退庁時間となってしまうので無意味だと思い、そのまま休んで翌朝出勤すると、直属の課長から呼ばれてお叱りを受けた。「こういうときには、人事課も出勤状況を調べたりしているのだから、来なきゃあ駄目じゃあないか」ということだった。

もちろん、当日実際に仕事に支障があったわけではない。でも、まあ日本の職場というのは、そんなものと既に分かってきていたので、素直にわびて引き下がったが、四十年以上経った今日でも覚えているということは、不本意だったからである。

そうこうしているうちに、5 年あまりがたち、大阪万博開催の年の夏に、宮城県の課長に転出する辞令を受けて、仙台に引っ越すこととなった。私自身は、人事院の長期研修(ほぼ 3 か月)の修学旅行(?)で、始まったばかりの春に万博を 2 日間しっかり見たが、妻は夏休みに子どもを連れて里帰りし、見に行けばいいだろうと話していたのに、この異動でその機会を逸してしまった。

東京では、いろいろと移り住んできたが、考えてみると 23 区外は調布だけである。ただ、特急停車の調布駅から歩ける程度の場所だったから、何の不便もなく、快適に過ごせた。今も鉄筋の公務員宿舎は健在だろうか。ついであつたら、見に行ってみよう。